リサイクル企業として着実に基盤

特殊金属リサイクル専門商社の大阪商事（本社＝大阪市西区京町堀、藤田國廣社長☎06-6448-5151）は昨年12月、大阪中小企業投資育成側から4000万円の投資を受けるなど、「リサイクル企業」としての社会的基盤と認知を着々と整えている。折から、コバルトをはじめとする希少金属も高騰、各の動向に関心が寄せられている。藤田社長に話を聞いた。（今村、佐七）

大阪商事社長 藤田國廣氏に聞く

増資を機に業容拡大

情報収集からビジネスが

――大阪中小企業投資育成からの投資が決まりましたが。

「感謝している。金銭的な事より、企業評価という面で多いにプラスになる。投資育成は中小企業庁の監督下にあり、主に地方公共団体が出資している政策実施機関で、昭和38年に設立され、今日まで全国で約2800社が認証を受けている。かなり厳しい審査があった。内容は、新株予約権付社債発行方式で4000万円投資を頂き、5年以内に一定の株式をお渡しして安定株主になって頂くやり方だ。目的は企業のイメージアップ、パブリック・カンパニーへの第一歩、資金調達の多様化等だ」

――2月に50%増資を実施されますが、今回の投資と何か関係は。また増資の狙いは。

「今回の投資と、増資は直接、関係ない。また増資そのものも特に際立った狙いはない。現在、資本金は4000万円だが、それを今回と2年後ぐらいにおのおの50%増資を行い、9000万円にしたい。単純には自己資本の充実という事だが、出来れば建設的な姿、形を付けていきたい」

――今回の増資にトヨタグループ（豊通非鉄販売㈱）が資本参加すると聞いていますが、その意味合いと、利点は。

「今回増資分の50%をお引き受け頂いた。総株数の16・7%に相当し、第2位株主となる。現在もビジネス関係はあるが、さらに業務協力を国内外に広げ、新規ビジネスの開拓・開発につなげたいと思っている。第3者から資本を頂く事は、今まで以上に企業姿勢をしっかりしなければ、と自省している」

――昨年、特に下期にかけてコバルトをはじめとする希少金属の値上がりが急です。この要因は。また内外事情と、今後の見通しは。

「最近では鉄まで不足してきた。要因はたくさんあり複雑だが、最たるものは中国市場の急速な拡大と、景気や経済の予測図からくる投機だと思う。パブリーな感じもあるが、確かな需要に裏打ちされている部分も多いと思う。投機の部分は調整が入るだろうが、急落は考えられない。オールド・インダストリーも、ニュー・インダストリーも同時に良くなっている実感がある。SARSとか、テロとか不透明要因もあるが、今年中はまず高値で推移すると思う」

――08年五輪、10年上海万博を控えた中国を、希少金属市場ではどのような位置付けとしているのか。

「五輪開催は中国経済の一つの到達点であり、その過程は物理的にも精神的にも景気・経済のけん引力になると思う。ただ、市場主義経済の矛盾というか、落とし穴のようなものを中国市場はまだ経験していないと思う。将来、必ず、通過すると思うし、また乗り越えなければならないだろう。市場のサイズが大きいため、世界の景気や金属相場への影響度もさらに大きいものになると考えられる。中国一辺倒ではダメで、当社もビジネスは多く、深くなっていくとは思うが、フットワークの良い動きで臨みたいと思う」

――今2月期決算の見通しは。

「まだ1カ月残しているが、増収・増益の見込みだ。売上高は前期（48億円）に比べて15%増の55億―56億円を目標としていたが、最終的には62億―63億円ぐらいになると見ている。しかし、これは急速な相場上昇が生み出した数字であり、取扱数量の増加から見れば、実力的には目標値ぐらいだと思う」

――来期（04年度）の目標と、設備投資額は。また重点課題は。

「今期目標が、数量で月間約1200㌧、金額で55億―56億円だった。来期はおのおの10%増の数量が月間約1320㌧、売上高で61億円を目標としている。ただ、価額変動は我々の力の及ぶところではないので、売上高はとらえにくい面がある」

「設備投資は多々ある。まず全体に人員不足。管理部門、営業部門、物流センターなど、各部署の増員が必要だ。それと、『OTS』と称したコンピュータ・システムの立ち上げを始めており、現在、第2フェーズに入る段階だが、第3フェーズを終えるのにハードを含め、8000万―9000万円が必要だ。また、『1st物流センター』が手狭になり、かなり大きな物流センターが必要となっている。現在、候補地を探しているが、何とか来期中には立ち上げたいと思っている」

――最後に貴社の将来の展開は。

「派生品（スクラップ）は、ユーザーからみて数量的にも、品質的にも安定感が悪いと思われている。一般生産品と同じ計画性や安定性を、どうやって確立するか、いわば、『材料メーカー』になるには何を考え、何をしなければならないか。まずはそこだと思っている。そして最近、新感する事は『さすが、情報化社会』という事だ。我々のような企業でも情報の収集・処理・管理をしっかりやればさまざまなチャンスが与えられる。ヒューマンでフィジカルな基本的なものは当然必要だが、情報がさらなる資源であると感じている。資源リサイクルをやっているが、この2つを足したものが本当の商品になると思い、取り組んでいきたい」